

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400047		
法人名	特定非営利活動法人リスペクト		
事業所名	認知症高齢者グループホーム碧水		
所在地	雨竜郡北竜町字碧水15番地の2		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	平成24年2月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197400047&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、事業の透明性を図ることから、運営推進会議において業務の内容や人事についての悩みなど報告しており委員の皆様よりアドバイスを頂きながら事業運営を行っているところでございます。
また、グループホームは地域密着との関係性も強く、地域に認められるよう積極的に地域の行事並びに自治区の会議や地域の草刈りなどに参加しております。地域の高齢化に伴い葬儀のお手伝いなども頼まれるようになってきており、これからも積極的に地域に向けてお手伝いが出来るように取り組んでいきたいと考えております。利用者やご家族の皆様のお気持ちを出来るだけ取り入れながら皆様に喜ばれるホーム作りを目指していきたいと思っており、利用者様がいつまでも安心してホームで暮らし続けていけるよう職員とご家族と一緒に考えながら協力していきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム碧水は国道のバス停に近い住宅街に位置している。建物内は明るく開放的で、トイレの数が多く、車椅子対応となっているなど設備が整っている。地域との付き合いに力を入れており、積雪地域であることから、冬期には事業所の除雪機で近所の除雪を手伝って感謝されたり、町内会の仮装盆踊りに職員が参加したりしている。また、地域の子供達との触れ合いや地域ボランティアとの交流も進んでいる。昨年のクリスマスには、町内の保育園に施設長がサンタに扮して園児たちにプレゼントを配り喜ばれた。職員の教育に熱心で、教育研修機関の音声ガイダンスによる内部研修プログラムを採用し、職員は毎月筆記試験を行ない、個々に理解度を確認する仕組みである。職員の意見を反映させるために、職員会議を2週間毎に開催している。最近、休憩時間にゆっくり休めるように畳敷の個室スペースを用意している。医療機関の受診支援では、利用者自由に医療機関を選択してもらい、殆どの利用者の通院支援を行なっている。医療情報は、個別の「医療連携経過記録」に記載し全職員で共有しており、家族が付き添いを行なった時も、内容を聞いて記録している。また災害対策では、避難訓練に地域の方の参加をお願いしている。さらに、職員の救急救命訓練も定期的に行ない、災害用の備品も用意している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で2つの理念をつくりあげる事が出来て、理念に向かって職員会議やサービス担当者会議などで、日々の実践をしているところです。	法人の経営理念に加えて、地域密着を踏まえた「基本ケア理念」があり、パンフレットや共用空間に掲げられているが、職員の入れ替わりもあり、ケア理念の内容の見直しや項目の追加を検討している。	職員全員が新たな気持ちで、基本ケア理念を確認し、更に充実した内容に進化させ、共有・実践していくことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や老人会の行事に呼ばれたりしており、可能な限り参加し、地域との交流を図っています。	近所の除雪を積極的に手伝い、お礼のお菓子をいただくなどの交流があり、町内会の仮装盆踊りにも職員が参加したりしている。前回の外部評価の課題であった、地域の子供達との触れ合い、地域ボランティアとの交流も進んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの役割としては、地域住民に認知症の理解をして頂きたいと考えています。運営推進委員の方たちにもホームの理解をして頂きたいことから各地区の老人会に出向きホームの宣伝をしてくる予定となっております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては出来るだけ事業の内容など透明性を図れるように事細かく説明しているところでもあります。また、委員からはアドバイスを頂く事もでき、何でも話し合える環境があり、サービス向上につながるものと考えております。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催され、町内会長、老人クラブ会長・前会長、地域包括支援センター職員等が参加し、営業報告や業務報告について意見をもらっているが、外部評価についての話し合いは特に行っていない。また、家族の参加は代表者のみで、議事録も家族全員には配付していない。	会議で、自己評価・外部評価について話し合い意見をもらうことを期待したい。また、会議の日程を全家族に周知し、事前に意見を出してもらうなどの取り組みと、議事録を全家族に配付することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場職員とは、日頃からいつでも情報交換ができる環境にもなっており、非常に良い関係になっていると思っております。	毎月、地域包括支援センター職員を訪問し相談している。また、今年のクリスマスには、町内の保育園からの依頼で、施設長がサンタに扮して園児たちにプレゼントを配っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームは、身体拘束は行わないという考えから、施錠も日中はしておらず、外出がしたいのであれば、いつでも外へ出られる環境となっており、お部屋に鍵がついていても、自分で外せるようになっている。	「身体拘束廃止委員会」を立ち上げ、毎年具体的な行為などについて確認している。また、教育研修機関の音声ガイダンスによる内部研修プログラムの中に身体拘束の項目があり、全職員に筆記試験を課し、理解度を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、自己研修としてテキストを用いて研修を行っております。この研修は、毎年テスト形式を用いて毎年行うようにしており、虐待防止に努めており、お互い注しながらサービスの実践に努めております。		

認知症高齢者グループホーム 碧水

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この度後見人制度を利用したご家族の方よりお話を伺い、初めて後見人制度のご家族とお話しする機会がありましたが、ホームとしては、特に変更するような事もなくいつもの通りの支援をしているところです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項より説明をしてから契約を交わしております。特にお金が絡むため、特に問題となる入退院時の時の請求などに神経をとがらし十分納得されてから契約を結んでおります。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の代表として運営推進会議に参加していただいていることや、意見箱やアンケートなどを取り入れながらご家族等の意見を反映しやすいよう取り組んでおります。	家族等が頻繁に訪問してくれるので、施設長とリーダーが積極的に話しかけ意見を聞いている。また、前回の外部評価の取り組み事項であった家族アンケートも実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には、出来るだけ職員の提案や議案などを挙げてほしいと常日頃訴えており、管理者の立場で言う場合もありますが、職員の意見もできるだけ取り入れる事が出来るように努めております。職員からの議案提出も実際に行われております。	2週間毎に開催する職員会議には、予め職員からテーマを出してもらい話し合っている。最近、職員から休憩室の改善要望が出たので、従来の休憩スペースから別途畳敷の個室スペースを用意し、大型テレビも設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者と常日頃から密な連携を心がけており、職場内での人間関係や業務の改善などスムーズに行えるようにしていることや職員からの相談などには、すぐ対応できる体制を心がけています。職員が不平や不満がないよういつでも相談できる雰囲気作りを心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は毎月といってよいくらい研修に出かけております。交代勤務のため、全員行って研修をしたいところですが、順番に研修に行ってもらっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との職員交流が出来るように管理者同士が打ち合わせを行い、職員の交流が出来るように実践しております。他のホームの良いとこどりをしようという目的で4施設で現在実践しております。来年度も継続して研修して行く予定となっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がスムーズにホームでの生活に不安がないようご家族から普段の生活について聞き取りを行い、また、センター方式の基本情報や生活歴を参考にまず、1ヶ月間の仮計画を実施してから、本計画を作成しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前のご家族の不安や心配事などに耳を傾け、何に現在不安を抱えているのかを適切に捉え、ご家族との信頼関係が築けるようにご相談のっております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族やご本人の悩みは意外と多くあり、利用者のご家族の関係がうまくいっているのかどうかを見極めながら心配事などに耳を傾け、その家族の抱えている課題などに適切なアドバイスを行えるように支援しております。また、ご本人の悩みなどもその時には言えなくても後で気に様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族の一員として捉えており、自分の親だったらどうするかを常日頃から心がけております。また、利用者同士も同じ家族といった気持ちも芽生えており、入院した時は皆さんが心配するといった場面が見られています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援するのは本来の務めですが、ご家族の意見もきちんと聞き、勝手にホーム側の主導権によりサービスを展開するのではなく、例えば緊急に入院する場合、ご家族に連絡を取り、何処の病院が良いかを聞くなど可能な限り配慮しております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族との関係では、当ホームは頻りに面会もあり、一人ぼっちになっている事はない状況です。また、以前住んでいた所の友人などが訪ねてくる等馴染みの関係は多いと思われます。	友人や近所に住んでいた方が訪問してくれるので、お茶やコーヒーを提供してゆっくり話をしてもらっている。また、家族の協力を得て、馴染みの床屋やお墓参りに行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がいたわりながら生活している状況が見られています。一人ひとりの役割も構築されており、掃除担当や食事の後かたづけを手伝ってくれるといったお互いに支えあう気持ちが伺えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去しても、病院や施設などに様子を見に行くといった事を行っております。その担当者や相談員とお話をきてきており、ただ移って行っただけではなく、その後のフォローも必要と考えており、必ず面会を行ってきております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用い、本人の言った事やしぐさから、その人らしさといった事を話し合う事ができるようサービス担当者会議を開催し、職員皆で話し合っています。どうしてもわからない事は、家族へ聞くといった事も心がけながら、その人らしさを追求しております。	利用者毎に一人ひとりの思いや意向を利用者本人や家族の意見を聞きながら把握し、連絡ノートに記載している。また、センター方式のアセスメントシートを3ヶ月毎に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の生活歴や昔からなじんでいた生活をご家族様に書いていただき、介護計画の参考にしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日をただ漠然と過ごすのではなく、1日を学園での生活におきかえ、国語、算数、社会、音楽、体育等変化にとんだ授業を取り入れ、無理のないような授業で生活できるように取り組んでおります。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で可能な限りサービス担当者会議に出席しながら課題やサービスのあり方など話し合っております。どうしても解決が難しい課題などには、家族の力も必要となる事もあり、相談しながら介護計画のサービスに取り入れております。	利用開始時に暫定の介護計画を作成し、その後は利用者・家族等の意見を聞きながら1ヶ月で本計画を作り上げている。その後3ヶ月で見直しし、以後、短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に見直している。また、「ケース記録」に介護計画関連記録の項目を設けて記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録やバイタルチェック表を用いて、排泄の状況や血圧の状況、体温の状況など日頃から観察できるように、その日の記録だけではなく1週間前の状況等にも目を通しながら適切なケアができるように努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に即したその時のニーズを把握しながら、柔軟な支援が出来るように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑や花壇をつくりながら、野菜を収穫したり、お花を鑑賞したりして、それぞれが楽しめる環境作りを実践しています。また、夏場には盆踊りやビールパーティといった地域での模様し物にも参加し、季節に応じ楽しんでいただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との受診は定期的に行いながら、医師との連携強化を図っております。また、緊急時には夜間対応できない場合、市立病院へ搬送するなどご家族様の了解のもと適切な医療が受けられるように取り組んでおります。	協力医療機関と従来のかかりつけ医を自由に選択してもらっている。殆どの利用者の通院支援をしている。医療機関からの情報は、個別の「医療連携経過記録」に記載し全職員で共有している。	

認知症高齢者グループホーム 碧水

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の勤務は週1回午前中のみ勤務となっておりますが、皮膚疾患やバイタルチェックを行っていただき、適切なアドバイスを介護職員に行っていただいております。また、夜間など相談したい時にはいつでも電話が出来る体制になっていることから介護職員にとっては安心のできる心強い存在となっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、いつもスムーズに市立病院側で対応してくれており、病状の説明や、入院期間などの説明もあり、また、退院時は必ず前もって電話連絡があり受け入れの準備もしやすく、一週間に1回から2回程度病院に出向き様子を伺ってきております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事の限界や身体状況を見極めながら、医療の面がこれから重要視されてくると思われる方については、ご家族に相談して、適切な病院や終末までの考え方を相談し、申し込みなどをしてきております。本来なら終末までホームで生活していただきたいと基本的には考えております。	利用開始時に「重度化した場合における対応の指針」を示し、利用者・家族等に説明し、同意書を書いている。その後重度化した場合は、状況に応じて、医療機関も交えて話し合っている。現状ではまだ看取りの経験は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	人命救助の方法について熟知したかという点はまだだといった感じだが、救急救命の方法の一部としてAEDの使用法や人工呼吸法の研修など過去において行っております。しかし、職員の退職に伴いまた、一から始めなければと考えております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の町内会と消防防災時において相互に応援が出来るように協定を結ぶ事となり、協力体制が確立できたことになりました。	消防署の協力の下に、年2回昼・夜間想定避難訓練を行ない地域の方にも参加してもらっている。また、職員の救急救命訓練も定期的に行ない、災害用の備品も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導において、その人の人格を尊重し記録などにおけるプライバシーにも配慮しながら、耳元で誘導できるように取り組んでおります。	利用者への呼び掛けは名字に「さん」付けを基本としている。一方、共用空間の個人記録場所での個人ファイルが利用者から目の付きやすい状態になっており、改善が必要である。	共用空間における個人ファイル等の管理について、離席の際は所定の場所に収納するなどの取り決めに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望やその思いをセンター方式を通して情報を職員間で出し合いながら自己決定していけるように取り組んでおります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切にし、職員側の都合で何でもしてしまう事のないように留意しながらサービスに取り組んでおります。今日ほどのように過ごしたいかは本人が決めるように日課は固定していません。その人らしく生活できるように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには普段から注意しており、化粧する事は女性にとっては生き甲斐ともなっており、可能な限り化粧を楽しんでもらっております。		

認知症高齢者グループホーム 碧水

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食材を聞きながら、献立作りを行っておりますが、年々ADLの低下もあり、調理を手伝ってくれる人はいなくなりましたが、後片付けやテーブル拭きなど行ってくれている人がおります。可能な限り継続できるように取り組んでおります。	朝食と昼食のおかずは配食業者のメニューとなるが、夕食では利用者の好みを取り入れている。職員は利用者と同じ食事をしていないが、施設長ができるだけ一緒に検食するようにしている。出前や個別の外食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平均的に利用者の体重が年々増加傾向にあることから、朝のみレトルト食品を11月より使用し、カロリーへの軽減に努めております。以前より体重の伸びは比較的に軽減されてきているようです。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後の口腔ケアは毎回行い、口腔内の清潔保持に努めております。1月30日には深川保健所から講師が来られ、口腔ケアについての研修を利用者と一緒に聞く予定となっております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を個別に捉えるため、排泄チェック表を使い、出来るだけ家族の経済的負担を軽減できるように努めており、排泄用品の使用頻度を極力抑えて支援を行っています。	排泄チェック表でパターンを把握し、プライバシーに配慮しながらさりげなく誘導するよう職員を指導している。ポータブルトイレを利用している方もいるが、他はできるだけトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に便秘の傾向を把握して、定期的を受診し、適切な排便方法を医師とともに取り組んでいます。しかし、それでも便秘傾向となりやすい方については再度受診し医療的な指導と方法についてアドバイスをもらい取り組んでおります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴は出来る体制を取り、自分で入りたい時にはいつでも入れるように毎日入浴ができるように取り組んでいます。	毎日入浴可能で、各利用者が週2回程度の入浴を行なっている。入浴拒否のある場合でも、入浴への動機づけを高める声掛けをしたり、日にちをずらすことで促している。シャワー浴や足浴のみの対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中や夜などは、その方の睡眠時間や、日中、気持ち良く疲れないよう、昼寝が取れるように個々の状況に合わせて眠れるように取り組んでおります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は全てにおいて管理をしており、一人ひとりの要望にこたえられるように目薬をさしてほしい要望があれば可能な限りは自分で出来るように指導しながら、出来ないところ目に向けて、要望があれば、介護員が支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課は特に決めてはおりませんが、おおむね生き生き学園というプログラムを設け、その日の気分にもよりますが、勉強したい時にはいつでもできる体制を取りながら、思い思いに自分たちで考え行動するといった行事が出来るように取り組んでおります。		

認知症高齢者グループホーム 碧水

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場の外への散歩はなかなかできていないところですが、春から夏にかけては、可能な限り屋外にドライブに出でいき、地域の行事にも参加して楽しめるように支援しております。(盆踊り、お祭り等)	夏場は、事業所前の駐車場や神社の公園を散歩したり、スーパーマーケットやコンビニに車で出掛けている。冬場は通院での外出が中心である。年間行事ではバラ園や菜の花、ひまわりなどを見に出かけたり、文化祭見学を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理している方は少数ですが、管理できている方はなるべく大金は持たせないよう家族にもお話をし理解を得ているところです。近くのコンビニやスーパーなどにも職員と一緒に出かけ、自分の買いたい物を買ってこれるように声掛けし、買い物にでかけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から頼まれた場合は電話の取り次ぎを行っていますが、手紙を書くという習慣の方はおらず、手紙についての支援は今のところ現状として行う機会がありません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、趣向を凝らし、硬いイメージがないように配慮しています。温度管理や採光などにも日中でも共有部分はいつでも明かりをつけており、不安のないような取り組みを心がけております。	共用空間は明るく開放的で、トイレは数も多く、車椅子対応など使いやすく造られている。温度や湿度、明るさも調整されている。壁には絵画や花の装飾が飾られ、植物や馴染みやすい調度品により落ち着いた雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で利用者同士が会話できるよう目配りを行いながらいつでも利用者同士が話せるような環境作りに取り組んでいます。お茶を出したり、コーヒーを一緒にのんでもらったりとコミュニケーションがとれるような雰囲気作りにも努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、可能な限り自分の家で使っていた物を持ってきていただき、自分の家と同じ様な環境をご家族に作ってもらい、生活できるように支援しております。	居室には利用者が持ち込んだ家具やテレビ、仏壇などが自由に置かれ、居心地良く過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーなどが飾られ居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を使い出来る事や解る事のシートをそれぞれ使いながら、現状の能力の理解に努めております。何でもしてあげるのではなく、どこができなくなってきたのか、また、どこが分からなくなってきたのかを見極めながら支援しているところです。		

目標達成計画

事業所名 認知症高齢者グループホーム 碧水

作成日：平成 24年 2月 1日

市町村受理日：平成 24年 2月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員の入替わりもあり、ケア理念の内容の見直しや項目の追加を検討したい。	基本ケア理念の再検討と理念の充実を図る。	基本ケア理念を再度見直し、職員皆で再検討し、基本理念の追加も視野に入れながら、ケア理念の構築に取り組んでいきたい。	平成24年2月1日から1年間
2	4	運営推進会議は2ヶ月に1回開催してはいるものの、会議の内容などは各家族には配布するまでは至っていない。また、家族からの意見などを出してもらえないような状況にもなっていない。	各家族へ運営推進会議の日程の周知と意見収集並びに議事録の配布の徹底を図る。	各家族へ運営推進会議の日程を周知するとともに議事録の配布も行っていきたい。また、事前に家族から意見などを出してもらえないような環境作りに努めていきたい。	平成24年2月1日から1年間
3	36	個人情報の漏えいには気を使っているところですが、まだまだ管理の上で十分行っているとは言えない環境であった。	個人情報の管理を職員間で留意しながら徹底して管理していく。	職員間で個人情報の管理のりあり方について再度研修を行い、職員同士で声をかけながら個人情報の管理について徹底していきたい。	平成24年2月1日から1年間
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。